

祖母はよそ者？

What's in a name?

かわい ひろ なお
河合 洋尚

民博 グローバル現象研究部

昨年、久しぶりに中国広東省のフィールドに行き、ある家庭を訪問したとき、祖母が孫への怒りを口にしていた。もうあの子はうちの孫ではない、とばかりの憤慨ぶりであった。その理由を聞いてみると、彼らの方言である潮州語で孫が祖母のことを「外婆」（おばあちゃん）と呼んだのが問題であつたらしい。この祖母は、孫からすると母親の母にあたる。中国語を解する人ならば、なぜ祖母が怒っているのか理解に苦しむであろう。しかし、その背景には、中国の方言をめぐる複雑な状況が関係している。中国は多民族国家である。五六の民族のうちマジョリティであるのが漢族であるが、一〇億人を超える漢族は、文化・言語面での多様性が大きい。例えば、北方をベースとする中国語と、南方の方言である広東語、客家語、潮州語とは、コミュニケーションすら成り立たない。みな漢字を使うとはいえ、方言にはそれぞれ独自の漢字表記が一部あつたり、漢字では表記できないことがあつたりする。さらには、親族呼称の範囲すら異なっている。

祖母の怒りの原因となった、「外婆」という呼称は、中国語の文脈では何の問題もない。ところが、潮州語で「外婆」と呼ぶと、「外」という漢字にあるように、「よそ者」というニュアンスが強調されてしまう。だから、祖母は、同じ家族の一員ではない「よそ者」であると孫から言われたと思い、怒りを露わにしたのである。

ここで、祖母は中国語の「外婆」という単語を知らなかったのかと思う読者もおられるかもしれない。しかし、中国の南部では中国語をほとんど解さない高齢者も少なくない。他方で、若い孫の世代となると、方言を解するものの、学校やテレビの影響で中国語が日常会話のベースとなることがある。このように、得意とする使用言語が異なるため、孫は、中国語の表現を基盤として、方言で話すこともある。そのとき、中国語と方言の意味のズレにより、行き違いが生じるという状況が生まれるのだ。

結局、この問題は、母親が仲介をし、中国語の意味を祖母に教えることで解決した。しかし、祖母は、「外婆」と呼ばれることにはかなりの抵抗感があるらしい。だから、その後は、祖母を潮州語で「媠媠」と呼ぶことが、この家庭の暗黙のルールとなった。このささやかなトラブルは、ジェネレーションギャップの問題だけで言いあらわすことができない。現代中国の内部における異文化（言語）衝突の片鱗を、ここに見てとることができる。